

## 令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	69	学校名	天竜高等学校	校長名	渡辺二三彦
------	----	-----	--------	-----	-------

本年度の取組（重点目標は太字で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	学校評価	成果◎と課題▲
ア	<b>基本的な生活習慣を確立し、時間、マナー、ルールを守ることで育つ生徒を育成する。</b>	問題行動発生件数（年10件以内）	R5年度 11件 R6年度 17件 R7年度 3件	A	◎生徒アンケートをみてもルール順守の傾向が高い。(96.4%) ◎日ごろの指導により問題行動発生件数は減少し、生徒は落ち着いた学校生活を送ることができた。 ◎全校集会や学年集会で校則やモラルの周知徹底を呼び掛けた。 ▲SNS利用に関する問題が発生した。 ▲多様な背景を持つ生徒への対応や予防的指導が難しい。
		遅刻者数（前年比 20%削減）	R6年度 656件 R7年度 594件 (9.5%減) (2学期まで)	B	◎ほとんどの生徒は時間やルールを守って行動できている。 ▲指導はしているが、遅刻を繰り返す生徒がおり、家庭との連携などが課題。 ▲昨年度より減少してきているものの、月ごとに遅刻者数を数字で示すなどの対応が必要と考える。
		情報講座の実施（年1回） 使用状況調査導入	天竜警察署員による講話を実施した。（年1回） スマートフォン使用状況調査を実施した。	A	◎警察署によるスマートフォン安全教室、闇バイトの注意喚起を実施した。集会や授業でも複数回呼びかけを行った。 ◎スマートフォンの利用状況を調査し、結果を担当が面談等に活かした。 ▲問題行動で携帯使用に関する事案が発生した。常に伝えていくことが大切である。
イ	<b>爽やかな挨拶を励行するとともに、感謝の気持ちを素直に表現できる生徒、他の生徒の努力を認めることができる生徒を育成する。また、多様性を尊重するとともに、いじめ、迷惑行為、暴力行為を絶対</b>	朝の特別挨拶運動（原則月1回）	原則毎朝風紀委員が当番制で行った。	A	◎毎朝の挨拶当番の生徒が意欲的に挨拶していた。生徒が自発的に挨拶をするようになった。 ▲挨拶運動をしなくても明るい自然な挨拶ができるようにする。
		外部研修会への参加、事後報告などを行う。（年2回）	研修会に参加し、校内で人権教育に関する研修を実施したり、他校の取組を参考にしたりした。	A	◎折に触れ、他人を尊重する大切さ等について生徒に呼び掛けた。 ◎教員間で常に情報共有を行った。 ◎教員と生徒の信頼関係の高さを感じた。 ◎生地研や学警連を通して情報を集めたり、外部のプログラムを実施した。 ▲他校と連携をとり、指導に役立てる。
		ソーシャルスキルトレーニング	各HRでLHR等において実施した。	A	◎限られた時間の中で、ソーシャルスキルトレーニングやいじめ、暴力をテーマにしたLHRを実施することができた。

	に許さない雰囲気醸成する。	LHRにて行う。			▲LHRの時数が少ないのが課題である。
		生徒面談実施(年2回) 学校生活アンケート(年1回)	面接週間を2回設定した。 アンケートを6月、11月に実施	A	◎面接週間以外にも日常的に面談を実施している。 ◎アンケートで問題を早期発見できた。 ◎教育活動に対する姿勢は肯定的な回答が多かった。 ▲生徒の人間関係の問題が多く、担任の負担が大きかった。
		HRごとにMVP表彰(学期1回)	学期に1回各HRでMVPを選出し、表彰した。	A	◎互いに尊重し合う雰囲気をつくることのできた。 ◎クラスごとに工夫をこらし、様々な観点から活躍している生徒を表彰した。
ウ	個々の実態に応じた学習指導の確立と、学習指導要領を踏まえた授業改善を推進する。	授業が分かれると答える生徒(80%)	生徒アンケート肯定回答 授業に意欲的 R6 91.4% R7 91.4% 授業がよくわかる R6 83.9% R7 85.5% 授業に満足 R6 88.4% R7 89.4%	A	◎昨年度より授業がよくわかる生徒、満足していると回答する生徒が増加している。 ◎生徒アンケートは建設的な意見が多くなり、授業改善に活用できるようになった。 ◎研修や職員授業公開週間などを通して生徒が授業を理解できるようにICTを使う場面が学校全体で増加した。 ◎ICTの効果的な活用などに各教科が積極的に取り組んでいる。 ▲引き続き多様な生徒への個に応じた指導の工夫が必要である。 ▲主体的な家庭学習へ結び付けたい。
		2,3年生において前年4月成績と比較しD層の生徒が減少する。	【2年】D層全体では変化がなかったが、D3は昨年度より8名減少した。 【3年】D層全体では6名減少したが、D3は昨年度より5名増加した。	B	◎分かりやすい授業やICTや視聴覚教材の活用、小テストの実施などにより苦手意識を軽減し、前向きに取り組むことができた。 ◎上位層の評定平均は上がっており、前向きに学習に向かう生徒が増えている。 ▲基礎力診断テスト実施後に振り返りや分析などを行う。 ▲自発的・継続的な学習姿勢や家庭学習の習慣づけが困難である。 ▲数学を履修していない生徒へ課題は出しているが、授業で解説ができないため、学年が上がるとテストではD層が増加する。
		各生徒が、スタディサプリの確認テストに年20回以上取り組む。	37回実施(1,2年2学期末時点、3年は全26回実施)	A	◎各教員の協力のもと、朝学習を週2回実施し、生徒全員が確認テストで全問正解になるまで取り組んだ。
		スタディサプリの確認テストマスター数が全校平均80%以上	各学年確認テストマスターになるまで繰り返し取り組んだ。(95%)	A	◎学年教務から担任への呼び掛け、及び各教員の協力のもと実施できた。 ◎業者の分析でも活用率が高かった。

		ロイロノート、スタディサプリ、グループクラスルームを活用した授業を実施する 教員 (80%)	ほぼすべての教員が活用した。 ICTを活用した授業改善についての研修会を年2回実施し、90%以上の教員が参加した。	A	◎ICT委員会を中心に研修会を年2回実施し、参加率は90%以上だった。 ◎ほぼ全員がICTを活用した授業を実施した上、AIなどの発展的な活用が増えてきている。
エ	授業、学習発表会、面接指導等を通じてコミュニケーション力を育成する。	コミュニケーション力アップを実感する生徒 (80%)	生徒アンケート肯定回答(86.9%)	A	◎新課程の学習指導要領の内容に準じて言語活動を取り入れた授業を行うことができた。 ◎授業での発表経験が、総合的な探究の時間で生かされていた。
		3年就職希望者の面接指導 (年5回)	外部指導者(ハローワーク、PTA等)の面接指導を3回、教職員のチューター制面接を計5回以上行った。	A	◎全生徒を対象にチューター制を導入して面接指導を丁寧に行った。 ▲基本は就職及び四年制大学、短期大学進学希望者のみをチューター制とし、専門学校希望者については、学年の状況や意向を鑑みたチューター制とする。
オ	語彙力、理解力、集中力を高め、柔軟な人間性を育む読書教育を推進する。	朝読書を週3回実施する。 天竜文学賞実施	朝読書、方法ともに実施率100%	A	◎図書館内の整理や表示の見直しに取り組んでいる。 ◎天竜文学賞では受賞作家の話聞き、文学への関心が高まった。校内で文学賞の紹介は十分できた。 ▲読書意欲の喚起が不十分だったため、方策を考えたい。
カ	個々の目標を明確にし、個に応じたきめ細やかな体系的・系統的なキャリア教育を推進する。	進路希望調査 (年2回)	進路希望調査は、2、3年生は2回、1年生は1回実施した。	B	◎進路希望調査をもとに、1年次生には体験型の進路探究授業を、2年次生には分野別のガイダンスを実施した。 ▲学年によって進路通信の活用に差が出た。適切な時期に発行できるように計画する。
		就業探究の実施	7月に2年生対象に2年部と連携して実施した。	A	◎「意欲的に取り組めた」生徒が98.3%、「満足している」生徒が96.6% ◎コミュニケーションと礼儀の徹底、学習意欲の向上、具体的な進路設計や仕事への意識向上といった成果が見られた。
		就職内定率 (100%)	就職内定率 (99%) (12月現在)	A	◎学年部を中心に、就職指導体制を構築することができた。 ▲引き続き、早期に目標を定めることを念頭に、就職指導を行う。
		希望進路達成率 (90%)	進路(進学)達成率(90%) (12月現在)	A	◎担任を中心に、受験形態の選定、指導を展開した。 ▲幅広い進学先・受検方法のため、個人に対応したより効果的な進学指導を検討する。
キ	学校行事、ホームルーム活動、清掃、部活動に積極的	意欲的に取り組んだと答えた生徒 (85%以上)	生徒アンケート肯定回答(91.4%)	A	◎生徒会が体育大会で独自種目やアンケートを実施したり、提案・呼びかけ等を行ったりするなど主体的な取り組み見られた。 ◎修学旅行において実行委員や担当教員

様式第3号

	に参加する生徒を育成することで創造性を育む学びを充実させる。				を中心とした事前研修・事後研修を行うことができた。 ◎学校行事を大切に作る姿勢がみられた。 ▲生徒主体の行事ができるよう生徒会の活動を活発にさせる。	
	一生懸命取り組んだと答える生徒(80%以上)年度当初に設定した目標を達成する部活動(70%以上)	生徒アンケート肯定回答(88%)年間休養日100日以上取得部活動(100%)効果的に休養日を設定することができた。年度当初に設定した目標を達成した部活動(95.2%)	A		◎2、3年生は部活動への登録を自由としたため、多くの生徒が積極的に活動できた。 ◎ほぼすべての部活動でガイドラインに準拠した活動を行った。 ▲主体的にできない生徒をどのように導いていくかが課題である。	
	清掃活動(週3回)	週3回行い、校内美化に努められた。ゴミの分別ルールを変更し、分かりやすくした。	A		◎清掃用具の管理・見直しをし、生徒が清掃しやすい環境を整えた。 ◎ゴミ分別徹底を目指し、保健厚生委員会を通してゴミの分別を呼び掛けた。 ▲変更後の分別について呼びかけを続けていく必要がある。	
ク	地域の将来を担う人材を育成するため、生徒が地域活性化に主体的に取り組み、ボランティア活動、校外活動に積極的に参加する機会を創出するとともに、地域との連携、系列・類型間での連携を積極的に行なう。	地域と連携したボランティア活動や校外活動に取り組んだ生徒(延べ100人以上)	天竜クリーンボランティア(1、2年)を実施した。延べ1600人の生徒が地域と連携した活動に参加した。	A	◎ボランティア部、郷土芸能部、吹奏楽部、野球部、天竜ラボなどが地域のイベントや清掃活動に複数回参加した。 ◎福祉科が地域の方を対象に3回イベントを実施した。 ▲同じ生徒が複数回参加し、学校全体としては裾野を広げることが課題である。	
		天竜区の未来を考える若者会議の実施(年3回)地域との連携的な学習(年50回以上)	「天竜区の未来を考える若者会議」を3回開催した。地域との連携的な学習を年124回実施した。	A	◎浜松市や地域と連携し、天竜区の未来を考える若者会議を学期ごとに内容を工夫して実施することができた。 ◎地域との積極的な関わりを持つ学習発表会を生徒主体で企画・運営することができた。(総合学科) ◎地域の保育園や大学との継続的な連携を行っている。(森林・環境科) ◎就業探究では、類型に関係のある内容で進めることができた。(森林・環境科) ▲若者会議はステークホルダーとして、大学などの参加は不十分だった。	
		学科長との情報交換会の開催(年3回)	定期的に(年10回以上)情報交換をした。	A		◎てんりゅう探究フェスタでの連携を十分に行うことができた。
		検討会議(年3回)類型、系列連	てんりゅう探究フェスタを3学科連携事業として開	B		◎学科や系列の枠を超えたてんりゅう探究フェスタの実施により、他学科や他系列の学びの理解が深まった。

		携活動の実施（2組）	催した。		<p>▲より一層主体的に発表や行事の運営に携わることのできる生徒の数を増やすことが課題である。</p> <p>▲森林・環境科は学科内で課題研究発表化を行っているので、生徒は重複している。</p> <p>◎福祉科主催の「クリスマス会」にて森林・環境科と連携し、箸の製作をした。</p> <p>◎福祉科の生徒が建築系列と連携して介護実習先で利用してもらうものを端材を活用して製作した。</p> <p>▲3学科併設の強みをさらに模索する必要がある。</p>
ケ	生徒の学校生活を支えるため、健康教育活動を推進する。	朝食摂取率（90%以上） 各種疾病治療率（65%以上）	10月末の朝食摂取状況調査は93.3%だった。 （生徒アンケート結果は86.6%） 疾病治療率 内科 74.2% 歯科 50.7% 視力 65.9% 眼科 66.7% 耳鼻 66.7% 尿検査 66.7% 心電図 90.9% 貧血検査 85.7%	A	<p>◎保健室来室者数は昨年度より約250人減少した。</p> <p>◎▲朝食摂取状況は2.6%増加したが、引き続き、改善するための対策を検討する必要がある。</p> <p>▲呼びかけ等をしたが、歯科に関しては意識が低く、50.7%だった。</p> <p>◎スクールカウンセラーと関係職員が連携することができた。</p> <p>◎テストバッテリーM2+を初めて実施し、生徒理解や指導に活かすことができた。</p>
		ケース会議の実施（年2回以上）	ケース会議を年6回実施した。（12月現在） 3名の個別の指導計画を作成した。 振り返りのケース会議も実施し、次年度や卒業後を見据えた支援方法を模索した。 職員会議等を通して、全職員で情報を共有した。	A	<p>◎保健室頻回来室者（10日以上）が、学年や担任との連携によりR6の37人から23人に減少したが、20日以上の頻回来室者は変わらず6人だった。</p> <p>◎一人ひとり丁寧に対応し職員間で共有することで、共通認識のもと指導することができた。</p> <p>▲支援対象とはしていないが支援が必要と感じる生徒への手立てが課題である。</p>
コ	保護者、地域に信頼される学校づくりを推進するため、本校の特色や教育活動を積極的に情報発信する。	PTA活動（年8回）	PTA役員による朝の交通指導（年2回）、文化祭協力、就職面接指導、学校保健委員会への参加など連携した教育活動を10回実施した。	A	◎PTA役員会を開催し、役員との意思疎通を行った。文化祭では、PTA役員有志が、天竜会館の清掃を行い、一般に公開した。特に3年生の就職面接指導は、全学年のPTA役員に協力を求め、充実した内容にすることができた。
		学校だよりの発行（年10回） 学校説明会開催	「学校だより」を10回発行した。 中学生一日体験入学（8月）、学校	A	◎「学校だより」をホームページ、保護者への配信、クラス掲示、地域の回覧板で広報するとともに、本校の魅力を発信できる「学

様式第3号

		(年2回)	説明会・授業見学会(10月)を開催した。		校案内」を作成し、本校の教育内容の発信力を強化した。 ◎学校説明会(計2回)の参加者は、中学生233名、中学生保護者177名(計410名)であった。事後アンケートでは、「参加して良かった」との回答がほぼ100%だった。
		ホームページの更新回数170回以上	ホームページを192回更新した。	A	◎森林・環境科、福祉科、部活動は意欲的な記事更新ができた。 ▲総合学科の更新回数が少なめ(10回)なので、更新回数を増やしてもらえるように働きかけたい。
サ	教職員の資質向上を図るとともに、働き方に関する意識改革を推進し、業務分担の適正化を図る。	校内研修会(年2回)	ICT活用などテーマに2回実施(12月現在)	A	◎参加率も良く、主体的に学びあう研修ができた。 ▲生徒指導に関わる研修の実施
		不祥事根絶研修(月1回)	職員会議で月1回実施	A	◎県の資料等を活用して、適切な時期に多様な形で研修を行った。Plantを活用した研修の受講も呼び掛けた。
		定時退勤の実施週1回 夏季休暇取得促進期間の休暇取得率(80%以上)	完全退勤20時、定時退勤日を推進した。 夏季休暇取得促進期間休暇取得率90%	A	◎完全退勤時刻を20時、月曜日を定時退勤日とし、職員室に掲示するとともに呼び掛けを行った。 ◎ストレスチェックの職場としての総合評価は良好であった。
		業務総量が削減した分掌の割合(80%以上)	業務総量を削減できた分掌は60%だが、次年度に向けた見直しをほとんどの分掌で行った。	B	◎「シン・リバイス天竜」による業務の見直しが行われた。 ◎PTA総会資料を電子化した。 ◎検討の末、芸術鑑賞会を廃止した。 ◎研修などを通してほとんどの教科で採点システム「百問繚乱」の活用が進んだ。 ▲多様な生徒への対応で時間外勤務が増えることが多い。 ▲AIの活用方法、それに伴う教科、分掌の業務の削減を模索したい。
シ	危機管理体制及び「命を守る教育」の充実を図る。	重大交通事故発生件数(0件) 街頭交通指導(年10日)	重大交通事故発生件数(0件) 交通事故発生件数(4件)  街頭交通指導13日実施	A	◎▲重大事故はなかったが、被害事故により怪我をした生徒が多かった。 ◎自転車指導カードの指導は昨年度64件、今年度59件と減少した。(10月現在) ▲交通ルールや指導の徹底を図る。
		防災訓練(年2回)	防災訓練を2回実施した。第2回の防災訓練は、学年別訓練を立案・実施した。防災委員会を設置した。	A	◎年2回(4月、11月)、内容、実施方法等を精査し、実効性の高い避難訓練を実施した。 ◎教職員対象の「校内防災ツアー」(5月)を行い、防災設備・備蓄食料の点検を実施できた。 ◎防災委員会を立ち上げ、フェーズフリーの視点で防災備蓄品の見直しを行った。
ス	ICTツールの活用等により	ICTツールの活用等による業務改善		A	◎事務室内で、再度法令規則や通知等を確認し、知識等を共有するなど、誤りの

様式第3号

効率の良い業務遂行、業務改善に努め、安全・安心な教育環境の整備充実を図る。	(年2件以上)			ないように事務処理を進めていく。
	定期的な検査等 (指摘0回)	会計例月検査で 文書指示1件	B	▲チェック体制を見直し、ケアレスミスの発生防止に努めていく。
	施設設備の点検(月2回)	技能員を中心に 施設設備の点検を 月2回実施した。	A	◎定期的な点検や、教職員とのコミュニケーションを図ることで情報収集するなど危険個所の早期発見に努め、安全・安心な教育環境整備を行った。
	危険箇所の確認、迅速な修理による危険回避(随時)	点検結果への対応ができた。	B	◎修繕または予算要求をすることはできたが、予算不足で対応に至っていない件もあるため、引き続き予算確保に努めていく。